

## 随 想

# これからはもっとハードの充実を！

岸 谷 孝 一

(東京大学名誉教授・日本大学教授)

(地下空間における消防防災対策  
委員会委員長)

よく言われているように、消防防災にはハードとソフトの両面がある。設備・機器の問題であるハードと、それを計画・管理・運営するソフトとがあって、どちらが欠けても安全にひび割れが生じる。

一方、近頃は防災コストを低減すべきであると称してハードの充実を妨げるような論調がある。ハードよりソフトに重点を移して、人間による安全対策を図り、防災コストを下げようという意見がある。このような考えは一見妥当なものと思われるが、筆者は大反対である。

果して危機に際して人間が信頼できるものであろうか。建築防火分野以外では、例えば航空機でも原子力でも、考えられる限りハードの充実を図り、その上にソフトがあると思ってよい。時代とともに設備・機器などハードは進歩するが、安全に対して人間は進歩するであろうか。それはノーである。

時代は急速に変化している。近ごろの若者は……、なんて言っているうちに中・壮・老年は取り残されてしまうようだ。新人類と呼ばれる連中が市民の過半を占めるような時代は近い。今の若者の特徴を評論家はいろいろと語っているが、一口で言うならば理性よりも感性で生きている甘ったれの無責任な人間である。このことは最近のファッション、ミュージックからも窺えよう。

これからの消防防災の視点は、このような時代の変化に応じて、今までのようなハードとソフトをバランス良く配慮して、人の能力にも頼る古典的な対策でなく、もっとハード重視の傾向にすべきである。それにしても、わが国の防災設備・機器メーカーの開発能力の向上を切に期待するものであるが、現状ではお寒い限りと思わざるをえない。

この頃、アメリカに行くたびに建物に取り付けられたスプリンクラーヘッドを眺めている。空港ビルに始まり、ホテルはいうに及ばずレストラン、マンション、アパート、ショッピングセンターからドームに至るまで、用途・規模・構造を問わず、見上げ、見回している。第一、スプリンクラーヘッドの種類が豊富なこと、見ているだけで楽しい。わが国の現状と比べて、なるほどと思う箇所うまく付けられており、こんな所までと思う天井にまであたりして、大変参考になる。

とくに大規模木造にスプリンクラーは必需品である。アメリカのこの種の建築には、見た目にも納まりが良く、木材と金属とが違和感もなく一体となっていた。ショッピングセンターでもその華やかな雰囲気にとけ込んだヘッドが見られた。その他、膜構造ドームのケーブルに取り付けられたもの、住宅用の早期反応型など学ぶべき数々が多い。

スプリンクラーは防災設備の基本的なハードである。そのあり方、形、能力などについて、今一度検討を加える時期に来ているのではなかろうか。